

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

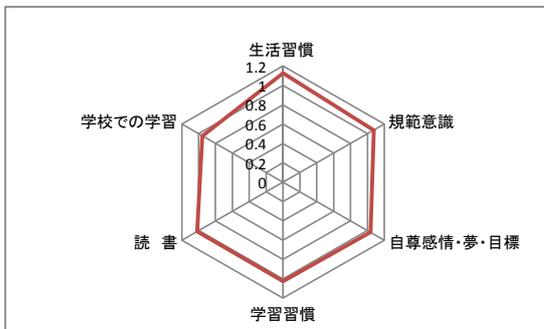
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・ローマ字を書いたり、読んだりする問題は全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	ローマ字を読んだり、書いたりする問題は正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・全国平均をわずかに上回っていたが、グラフを基に、分かったことを的確に書く問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	グラフを基に、分かったことを的確に書く問題は正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・全国平均と同程度であったが、1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を問う問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	不等号の理解を問う問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を問う問題は正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する問題は全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	乗法や除法の式の意味を解釈する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する問題の正答率は低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思っている児童の割合は減少傾向にあるが、依然として半数ほどの児童が難しいと思っている。引き続き本校スクールプランの重点的取組として挙げている、ノート指導に力を入れていく必要がある。 ・本校スクールプランの重点的取組として挙げている、家庭学習を充実させるための取組により、家庭で一時間以上勉強している児童は、増加傾向にある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 1時間の中で必ず、学習ノートに自分の考えを書かせる時間を確保する。児童が書いたノートの評価については、授業中・授業後に行うが、各学級に実態によって評価方法を工夫する。(学級)
- 算数科での少人数指導や個別指導の充実を図る。(学年・学級)
- 授業改善点検評価シートを一日、一単位時間は必ず活用することを通して、「わかる授業づくり5つのポイント」を常に意識する。(学校)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。また、宿題以外の家庭学習の定着を図るために、家庭学習チャレンジハンドブックの活用を推奨する。(学校)
- 各学年の実態に応じた宿題に取り組みせ、点検(評価)を徹底する。(学年・学級)
- 学校便り・学校ホームページを通して、全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。(学校)
- 「高見中学校区で目指す児童・生徒の10のすがた取組」を保護者に配布することにより、小中・家庭・地域で連携して、系統的な一貫した指導に当たる。(学校)